

JIU

The History of JIU
ヒストリー

城西国際大学の歩み

分冊読本 02

最初の卒業式を迎える

来賓ら見守るなか
第一期397名が巣立ち

城西国際大学入学式

JIU 往來も
スタート
歩み
歴史をたどる
テーマの

JIU 城西国際大学

HP <http://www.jiu.ac.jp/>

発行：2019年10月

編集：学校法人城西大学 広報センター

発行者：城西国際大学 総務課

〒283-8555 千葉県東金市求名1番地
TEL：0475-55-8800

テーマごとの歴史をたどる「歩み」——JIU 往来、もスタート

今号より「通史」「分野別」の2本立て

学校法人城西大学は、1965年に創立され、2015年に開学50年を迎えた。

創立者の水田三喜男先生は、戦後復興に全力を注ぎ、日本の飛躍的な経済成長の実現に努めた。政治家として、自由民主党政務調査会長として、義務教育費の国庫負担、私学助成等に尽力し、教育振興に情熱を傾けてきた。また、通産大臣、大蔵大臣などの経済閣僚を幾度もつとめ、財政・経済通として知られ、国際収支の悪化、経済不況や為替相場の変動など日本経済に難題が降りかかるたびに、水田先生の判断が頼りにされてきた。

その水田先生が掲げた「学園による人間形成」の建学の精神を受け継ぎ、1992年に創設されたのが城西国際大学(JIU)である。2022年には開学30年を迎える。それに合わせ、地域に根ざした国際的な総合大学として発展を遂げている城西国際大学

(JIU)の歩みと動きを様々な面から追いたい。

テーマ個々を別項で

今回号から30年を節目ごとに分けて紹介する「通史」に加え、テーマごとにその歩みと歴史をたどった「歩み——JIU 往来」をスタートさせる。今回は「運動部・前編」を見ていこう。

(↓6~11頁)



D棟工事



国際シンポジウム「公共空間と私的空間」

城西国際大学年表

平成4年(1992)4月~平成8年(1996)3月

平成4年(1992)

4月15日 第1期生入学式

11月7~8日 第1回JIUフェスティバル開催

平成5年(1993)

4月4日 第2期生入学式

10月13日 D棟・E棟竣工

平成6年(1994)

3月29日 開学モニュメント完成

4月6日 第3期生入学式

12月2~3日 国際シンポジウム開催「公共空間と私的空間」

平成7年(1995)

4月3日 第4期生入学式

12日 第2期工事地鎮祭
—F棟・G1棟・G2棟・第1食堂増築

11月1日 シャトルバス(蘇我便)運行開始

平成8年(1996)

3月17日 第1期生学位記授与式



第1期生入学式

7月26日 バルセロナ五輪開幕
9月12日 毛利衛さん宇宙へ



第1回JIUフェスティバル

6月9日 皇太子結婚の儀
10月15日 マンデラ氏らノーベル平和賞

6月27日 松本サリン事件発生
10月13日 大江健三郎氏ノーベル文学賞



第2期生入学式



チャリーディングで新生を歓迎—第4期生入学式で

1月17日 阪神淡路大震災発生
3月20日 地下鉄サリン事件発生

2月14日 将棋の羽生善治が史上初7冠独占



第1期生学位記授与式

最初の卒業式を迎える

来賓ら見守るなか第一期397名が巣立ち

「開学予定の1992年（平成4年）4月までには絶対に工事を間に合わせたい」との意気込みが、城西国際大学・東金市はじめ地元関係者の間に強く感じられた。JR東金線求名駅近くの約6万6000平方メートル（2万坪）の土地に、校舎3棟（A棟、B棟、C棟）と体育館、食堂が開学直前に完成した。図書館も校舎内に設けられた。途中、カリキュラム作成、教員採用など「重責」を任せられた人物が、突然辞任するなどのアクシデントもあったが、なんとか開学までこぎつけた。



最初の卒業生の門出をキャンパス全体で祝った
第一期生学位記授与式当日の様子

1年生パワーで 第1回JIUフェス開催

「JIUの門」を、経営情報学部 経営情報学科（入学定員180名）と人文学部 国際文化学科（入学定員180名）の学生1期生計433人が初めてくぐった。若いエネルギーがキャンパスにほとばしった。あちこちに運動、文化のサークルを作ろうという有志の参加を呼びかける声も響いた。11月には「第1回JIUフェスティバル1992 1st 出発」が開かれた。1年生だけのパワーで開催した。



第一期生入学式

職員全員「なんでも屋」で事務処理

当時、こうした大学運営を支えた職員は約20人。大学バスのターミナルの横にあるA棟1階が事務所で、ここに学事課・学生課・総務課・入試課・経理課などが入った。学部ごとの事務室はなく、5人ほどの学事課の職員が、学生に対応していた。学生課などの課では、課長と部下職員合わせても2〜3人という小世帯だった。職員数もともと少なく、全員が「なんでも屋」として互いに協力しながら事務処理した。肥田益次事務局長も同じフロアで机を並べた。

このほかA棟2階には情報センターがあり、ここで成績表や学生証など証明書類を一括して作成していた。あとは図書館に3〜4人の職員、パート職がいただけだった。開学当初から、一般試験で入学してきた留学生も目立った。ゴミ出しなど日本の生活

スタイルを知らない留学生もおり、多くの職員がその居住先のアパートの部屋まで整理・清掃に出向いた。

このころからB棟の大教室では、講演会、セミナー、シンポジウムが毎年開催され、学生、教職員のほか地元の方々の参加も目立った。1994年12月には国際シンポジウム「公共空間と私的空間——新たな都市のビジョンを求めて」を開催。スペインの建築家や当時、京大助教授だった浅田彰氏、東金キャンパスの設計を担当した大田建築設計研究所の大田純穂所長らがパネリストになった。

キャンパス整備進む

やがて、校舎が手狭になってきた。毎年、新1年生が入ってくる。開学翌年、D棟、E棟が竣工。E棟はコンクリート平屋建てで、運動部の部室用につくられた。のちにスポーツ文化センターが建設され

第一期卒業生397名が巣立つ

そして96年（平成8年）3月17日、第一期生学位記授与式が体育館で行われた。初めての卒業式である。舞台の壇上に並んだ多くの来賓らが見守る中、経営情報学部・経営情報学科の208人、人文学部・国際文化学科の189人、2学部2学科の計397名の学生が初めて東金キャンパスから社会に、大学院へと巣立った。

東金キャンパスのピアノ池のほとりに水田清子・名誉理事長が、第一期生の卒業に添えた句が碑に刻まれている。

水田清子句碑より

夢あまた
飛び翔つさまに
花辛夷

水田清子句碑

第1回 JIU フェスティバル



大田純穂氏(右)と国際シンポジウム「公共空間と私的空間」で

国際シンポジウム「公共空間と私的空間」に登壇した浅田彰氏

新棟建設・増築工事



運動部の歩み

前編

城西国際大学の東金キャンパスで第1期生入学式が挙行されたのは1992年4月15日。校舎3棟(A棟、B棟、C棟)と体育館、食堂、図書館——開学に必要な最低限の施設・設備しかなかった。

それでも入学した若い学生は「野球がしたい」「サッカーがしたい」「思い切り走りたい」……と集まり、スポーツ同好会、運動部、サークルが次々と生まれた。そのエネルギーはいまも引き継がれ、全国大会に出場する選手が顔を揃える。そしてプロの世界や実業団に飛び込み、活躍する卒業生も多く、「JIUスポーツの地平線」は広がっている。



JIUスポーツのスタートと発展

プロへ、世界へ 広がる地平線



女子駅伝部



女子駅伝部が、すでに活動していた陸上競技部に内設されたのは2001年。前年の秋に大塚正美氏が城西国際大学の教員になり、長距離走の女子選手の監督となった。当時、陸上競技部には男女10人ほどの部員がいた。「新たに女子駅伝部を創部することは、学内の手続き上、難しい面があった」という。

大塚氏は、茨城県立水戸工業高校時代、1年生で国体の3000m競走得優勝するなど活躍し、全国高校駅伝大会にも2回出場。1978年に日本体育大学に入学。1年生から4年生まで正月恒例の箱根駅伝に出場し、すべて区間賞を獲得した。1年の時に走った8区で区間新記録、4年の時は2区で区間新記録を樹立、この記録はそれぞれ15年間、13年間も破られなかった、という名ランナー。その指導者のもとに2001年春には、全国から8人が入部してきた(表1に名簿)。

そして、02年には、早くも全日本大学女子駅伝対校選手権大会(略称・全日本大学女子駅伝)に初出場する(表2にメンバー表)。現在は仙台市で開催され、「杜の都駅伝」として親しまれているが、第1回(1983年)大会から第22回(2004年)大会までは大阪市が開催地だった。

城西国際大学の出場メンバーの半分を占める3人の2年生は、女子駅伝部の1期生だ。大塚監督のもと、この初出場から11年まで全日本大学駅伝に10回連続出場を果たす。「仙台への切符」がかかる関東大学女子駅伝対校選手権は、現在は東京の国立競技場が開かれているが、当時は東京の国立競技場・神宮外苑の周回コースで行われていた。城西国際大学の女子駅伝部が全日本大学駅伝大学女子駅伝に初出場したことは、姉妹校の城西大学が実力上の「先輩格」で、国立競

名	前	出身高校
1	鈴木 香織	千葉県立東金商業高校
2	白石 美穂	千葉県立銚子高校
3	渡辺 友恵	私立山形城北高校
4	清水 由香	山梨県立韮崎高校
5	中沢 恵美	山梨県立韮崎高校
6	松本 理恵	福島県立田村高校
7	鈴木 晶子	愛知県立豊川工業高校
8	岡原 友紀	香川県立高松商業高校

[表1] 一期生名簿

名	前(学年)	出身高校
1区	渡辺 友恵 (2)	私立山形城北高校
2区	富永 杏子 (1)	神奈川県立麻生高校
3区	依田 緩奈 (1)	私立東海大第三高校
4区	白石 美穂 (2)	千葉県立銚子高校
5区	千葉 祐子 (1)	私立札幌静修高校
6区	鈴木 香織 (2)	千葉県立東金商業高校

[表2] 2002年の全国初出場チームのメンバー(15位)

技場・神宮外苑の周回コースで1周抜かれたこともあった。「JIUで初めて女子選手を指導している。どうしたらいいのか」。当時の城西国際大学の女子駅伝部の監督は鈴木尚人氏。日本体育大学の後輩で、指導法について話を聞きに行ったことも。

強化策が推し進められた。「JUとJIUの両校の女子駅伝部が全国大会で上位を競う姿を毎年、見たい」という学内の声に応え、03年、いまの選手寮が出来た。この甲斐があり、04年には全日本大学駅伝全国大会で6位となり、初のシード権を獲得。05年には3位になった。部員も25人ほどに増えた。

しかし、01年から11年まで監督を務めた大塚氏は、一時、監督を退き、活躍した女子駅伝部は低迷したが、17年に大塚氏が復帰。再び、「全国の常連」を狙う。

JIUの女子駅伝部の歴代選手の中から、大塚監督に「ドリームチーム」を選んでもらった。

歴代選手による「ドリームチーム」

- 1区 小倉 久美 (四国電力)
- 2区 阿部有香里 (しまむら 2012年国際人文学部)
- 3区 中村 萌乃 (ニバーサルエンターテインメント)
- 4区 高橋 千都 (教員)
- 5区 加藤友里恵 (2009年福祉総合学部)
- 6区 会津 恭子 (四国電力)

()内は現所属、卒業年など



理論家監督のもとチーム強化

JIUが設立された1992年、サッカー部が早くも創部された。入学式が終わり、その数日後に文化部・運動部やサークルの結成・参加を希望する新入生を対象にしたオリエンテーションを大学側が開いた。大教室がほほいっぴいになった。ここでの顔合わせや有志によるキャンパス内の勧誘ブース効果でサッカー志望の学生が集まった。11人ぎりぎりだったが、初練習に来たのは、5人ほどだった。

練習は授業が終わってから約2時間。グラウンドは、ラクロス部、ラクビー部と共同使用だった。ナイター設備もなく、部員の自動車を何台もグラウンドに横付けし、そのヘッドライトの明かりを頼りに練習した。指導者もおらず、練習方法も部員たちが話し合いながら決めた。試合用のユニフォームもなく、地元のスポーツ店からポロシャツを譲り受けて、ワッペンと背番号をつけた。

初心者もあり、ルールもわからず、スローイン、ボールの蹴り方さえ知らなかったというが、千葉県大学サッカー連盟に登録。93年、初めての公式戦「千葉県大学サッカー選手権大会」に出場し、千葉工大に0対7で負けた。監督や指導者はまだいなかったが、部員数は20〜30人と増え、96年には2部で優勝し、1部に昇格した。その後は、しばらくの間、2部降格、1部昇格を繰り返してきた。

転機となったのは、2010年7月。学校法人創立45周年を記念した、格上の城西大学との交流試合だった。1対8と大敗を喫し、「JIUサッカー部の強化を」との声が高まった。11年4月、小山哲司氏が監督に就任。部にとって待望の指導者で

ある。小山氏は早稲田大学卒業。北海道で教職に就いた後、00年に札幌の運営会社である(株)北海道フットボールクラブのチーム統括部長、04年には現在の横浜FMを運営する横浜マリノス(株)のゼネラルマネージャーなどを歴任。08年に日本代表チームコーディネーターに就任、岡田武史監督を支え、10年W杯南アフリカ大会でのベスト16進出に貢献した。

12年には、「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK」(高円宮殿下記念スポーツパーク)が東金キャンパスに完成した。高円宮妃久子さま、川淵三郎日本サッカー協会名誉会長らを招いてサッカー場の完成式典を行った。故・高円宮殿下の名前を冠したスポーツ施設は全国初。完成したサッカー場は正門前の敷地約3万3千平方メートルに、約1万7500平方メートルのサッカー場と、延べ床面積約4500平方メートルのクラブハウスを併設した。



高円宮殿下の三女、絢子さんが福祉総合学部で学ぶ一方でサッカー部のマネージャーを務めており、J・I・Uと高円宮家のご縁とともに高円宮殿下のご遺徳を国際大学で継承すべく、高円宮殿下の名前を冠するスポーツパークが誕生した。

強化2年目、千葉県大学サッカー2部リーグ全勝優勝。翌年より1部に昇格し、総理大臣杯につながる千葉県の大会で優勝するなど結果も安定してきた。17年3月、小山監督の後任に福井哲氏が就任した。福井氏は、日本サッカー協会技術委員・ナショナルトレセンコーチなどを歴任。前職のFC東京では、育成部長などをつとめ、選手、コーチの育成に手腕を発揮した。JFA公認S級のライセンスを持つ。サッカーの卓越した理論家である。

福井監督率いるサッカー部の部員（マネージャー含）は現在約70人。目標は、関東大学サッカーリーグへの昇格だ。千葉県大学サッカーリーグを勝ち抜き、その後の関東大会で2位以内に入れば、自動昇格となる。

17年春、サッカー部は、欧州遠征を行った。オランダを拠点にベルギーを回り、欧州のアマチュアのトップレベルのチームと親善試合を行った。選手23人とスタッフ3人が参加し、オランダで計5試合、ベルギーで1試合をこなした。

全員、ユフオームからスーツ、ネクタイ姿に着替えてロッテルダム市（オランダ）の市長を表敬訪問。川尻龍司選手が、市長の歓迎のあいさつので、英語でスピーチを行った。市長のあいさつの内容を織り込んだ即興のスピーチで、市長らも感心していたという。

19年シーズンより、コーチに元日本代表でジェフやジュビロで活躍した茶野隆行氏、スペインにサッカー留学していた今井謙太郎氏、早瀬良平氏が加わり、GKコーチの岸川義隆氏とともに、いっそうのチーム強化に取り組んでいる。



ロッテルダムで市長を表敬訪問した福井監督（中央）と選手達=2017年3月

プロ選手として活躍する卒業生

城西国際大学サッカー部は、卒業生がJリーグなどへはばたいている。

徳元悠平選手が、JリーグのFC琉球に18年シーズンより加入。16年シーズンにジュユニテッド市原・千葉に加入した大野哲煥選手、17年シーズンにガイナレ鳥取（19年シーズンよりザスパクサツ群馬）に加入した加藤潤也選手に続き、3年連続

大会に参加できる状態ではなかった。公式戦に出場するため、部員の確保に全国を奔走した。

08年、全国から集まった選手たちが4年生になった時に、関東学生ソフトボール選手権大会で優勝して、全日本大学ソフトボール選手権大会に出場を果たすまでになった。

しかし、入試課の職員として監督としての「役」をこなすのは容易ではない。そんな折、07年、高橋光平さんが経営情報学部の教員となった。高橋さんは、高校の男子ソフトボールの名門である新島学園を卒業し



千葉県大学女子ソフトボール選手権で3年ぶり6度目の優勝=2019年4月

アメリカンフットボール部

部員不足に悩みながら活動

アメリカンフットボール部（アメフト部）が創設されたのも開学直後である。観光学部の内山達也・准教授はその創設に加わった。内山さんは「なにか新しいスポーツを」と思っていたら、友達が「アメフトをやりたい」というので10人ほどが集まり、練習を始めた」と言う。週4日、放課後に2時間ほどの練習。

翌年、1期生10名のメンバーに2期生12名が加わり、運動部らしくなった。しかし、当時はナイター設備がなく、学生課にお願いしグラウンドに隣接した校舎の電気を全て点けさせてもらい、その光を頼りに練習をした。ボールを使った練習は「明るい朝」に済ませ、薄暗い放課後から夕方まではブロックなどの「ボール無し」の練習に明け暮れた。指導者もおらず、グラウンドもサッカー部などと一緒にだった。

防具だけを携えて千葉県内の社会人チームの練習に、予告約束なく「飛び入り」で参加する部員も出てきた。2期生の松平康秀・紀尾井町キャンパス教学事務室事務長である。これが縁でネットワークが広がり、千葉商大のOBが週末になると指導にきた。江戸川の河川敷のグラウンドで江戸川リーグのクラブチームと練習し、近隣の大学と練習試合を行い、東金キャンパスの学園祭の際、明治大学の同好会と試合をやったという。1997年には関東同好会リーグに加盟した。

アメフト部の悩みは、慢性的ともいえる部員不足だった。95年〜97年ごろが部員

のJリーグ選手を輩出した。その他、JFLやドイツやモンテネグロなど海外のプロサッカーチームでも卒業生が活躍している。

川淵三郎杯城西国際大学少年サッカー大会

「川淵三郎杯城西国際大学少年サッカー大会」は、毎年2月に東金キャンパス高円宮殿下記念スポーツパークで開かれている。19年で6回を迎え、すっかり地元で定着している。

この大会は、スポーツを通して次世代を担う青少年の健全な育成に寄与し、スポーツを楽しみながら親睦と交流を図り、サッカーの普及・発展に努め、地域のスポーツ振興に貢献することを目的として開催している。山武郡市の少年サッカーチームが集い、川淵三郎杯を目指して熱戦を繰り広げている。



女子ソフトボール部 全日本選手権 出場2回

城西国際大学の女子ソフトボール部の創部

は2003年。城西大学の硬式野球部監督だった原田勝美氏が、J・I・Uの硬式野球部の総監督を兼ねており、水田記念球場でも指導をしていた。そして、同じ球場で練習ができる女子ソフトボール部を創部した。原田氏は03年から05年まで監督をしていたが、そのあとを職員の田邊敏広さんに任せた。

田邊さんは、城西大学の硬式野球部出身で、当時、プレーヤーではなく主務として原田監督の指導体制を支えてきた。04年にJ・I・Uの職員となったが、創設間もない女子ソフトボール部は、部員が4名しかおらず、



第18回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦II部で優勝=2018年10月

だが、自身はソフトボールとは縁がなく、大学時代はアルペンスキーを得意とした。そして、J・I・Uの教員になった翌年から女子ソフトボール部の監督を任された。田邊さんはコーチとして支えた。

それから二人三脚での歩みで、学内外に多くのサポーターを増やし、16年の全日本大学ソフトボール選手権大会に8年ぶり2回目の出場を果たした。しかし、いずれも初戦で敗退し、残念ながら全国大会では勝利を味わったことはない。

女子ソフトボール部は、水田記念球場で練習していたが、東金キャンパス内のグラウンドに人工芝のソフトボール場が整備され、本拠地をここに移し、「全日本」を狙う。19年8月、関東学生ソフトボール連盟の代表として、台湾で行われる国際親善大会に出場した。タイ・シンガポール・マレーシア・上海・台北市のチームが参加した。

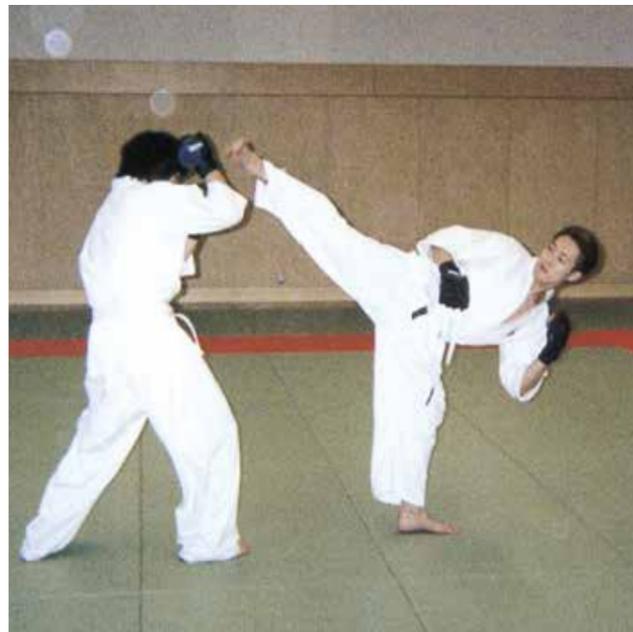
数25人前後とピーク。J・I・Uを卒業してからそのまま修士

博士課程（比較文化課程）に進んだ内山さんは研究生生活の一方で、部員減少などで運営がスムーズにいかなくなったアメフト部の立て直しに協力。院生時代にコーチを引き受け、週に3回ほどグラウンドに出て後輩を指導したという。

「体格の良い学生を見ると後を追いかけては、入部勧誘した」という部員たちの努力もかなわず、2003年にアメフト部は部員減少で存続不能となった。



国際大会での優勝・準優勝者など 多彩な人材を輩出



JIU開学10周年の2002年に空手道部は、関東学生空手道連盟(2部)に加盟し活動を開始した。流派、会派の経験にとらわれず、「空手道の歴史、技術、文化」を探求することをモットーにしたが、国際千唐流空手道連盟に登録している。創部以来、経営情報学部教授の七井誠一郎先生が指導。七井先生は千唐流四段・師範・国際千唐流空手道連盟議長だ。

国内大会だけではなく、07年8月にはノルウェー・ベルゲン市で開催された第9回千唐流宗家杯国際空手道選手権大会に選手を派遣。小川資弘選手が、カナダ選手、オーストラリア選手との激闘の末、個人有級組手の部、形の部で準優勝に輝いた。また、13年8月に香港

全国大会6年連続出場など果たす



男子・女子の剣道部も開学と同時にスタートした。「城西国際大学開学設置準備室」に勤務していた今井英雄さん(現在・広報課長)が、入試課に配属されるとともに監督に就任。今井さんは、姉妹大学の城西大学の剣道部で活躍。4年生の時には、個人戦において城西大学で初めて全国大会に出場しベスト16まで勝ち上がった。当時、理事長だった創立者の水田三喜男先生から「一つのことをやり抜くことは大変なことだ。しっかり続けることこそ大切だ」と激励された。今井監督は、この言葉を心に刻み、約40年間、自らの剣道修行の継続と学生指導の糧として一人ひとりの日常生活、剣道指導を続けてきているという。

1期生は、地元高校出身の男子1人、女子1人の僅か2名が入部し活動。2期生は県外からも多くの学生が入部するなど活動らしい活気のある稽古が始まった。稽古場となった旧体育館は狭く、バトミントン部、卓球部など各運動部とスペースを8分割して、周りのクラブに気を遣いながらの稽古だったという。全員が高校時代に剣道経験者で防具類は、個人調達で、毎日の稽古は2時間ほど。1994年には30名ほどの部員数となり、稽古も毎日行われているとの評価を受け、念願の関東学生剣道連盟に加盟が認められた。

96年、JIUの提携校である淡江大学(台湾)から城西大学ともに招待され、台湾の15大学を交え、トーナメント戦(男子団体)を行い、準優勝。城西大学が優勝した。98年には同じように、提携

校の東西大学(韓国・釜山市)にも遠征試合を行われ、国際大学に相応しい活動が行われた。

剣道部の「転機」になったのは、開学10周年を迎えた2002年(平成14年)。女子剣道部の強化を開始し、これが実り、07年に全日本女子学生優勝大会(団体戦)に初出場したのを皮切りに6年連続出場した。これまで通算8度の出場を果たしている。男子は全国大会の団体戦に出場したことはないが、これまで個人戦では4人が全国大会に出場している。

水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会

毎年2月初旬に、東金キャンパスのスポーツ文化センターで行われている「水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」が始まったのも開学10周年を記念して。創立者が志した文武両道の精神を受け継ぎ、心身の優れた人材育成をめざして行われている。1回目は、運営上の制約から関東の高校に絞り、男女24チームずつを招待した。その後は、全国の剣道の強豪校を中心に招待状を送り、2019年の18回大会では男子58チーム、女子48チームが参加した。

韓国選抜(男子)チームは、第2回大会から参加している。韓国では、本大会への選手選考会を行い、上位の選手を集め本大会に挑んでいる。そのため「JIUの水田旗争奪選抜高等学校剣道大会」は、韓国の高校生剣士の間ではよく知られ、本大会選考会への出場者が増えているという。いままでの出場者の中から世界大会出場者も出るなど選抜チームのレベルは高い。

留学生の剣道体験

米国ジョージア州のアトランタにあるJIUの海外提携校であるスベルマンカレッジから研修に来た留学生が剣道を体験している。指導は、剣道部員が行い、剣道着・袴の装置▶正座の仕方▶礼の仕方から、足の置き(すり足)▶打突部位(面・小手・胴)への打ち方——を指導する。実際に剣道部員に防具を着けさせ打たせる。最後に礼をして終わる。

約90分間。剣道体験は大変好評らしく、スベルマンカレッジのサマースクール開設から毎年行っている。

大学祭のオープンセレモニーで今年も演武(剣舞)を披露

東金キャンパスの「JIUフェスティバル」で、剣道部は開催式で創作剣舞「風林火山」を披露している。日本舞踊飛鳥流三代目家元から手ほどきを受け始めたのは9月からで、週に1回、40分程度。学生たちは授業があるため全員が揃って手ほどきを受けることはないが、先生からの教を剣道の稽古後や早朝に集まり、欠席者に教えることを本番直前までつなげる。2018年11月、迎えた本番では、男子、女子部員が約4分間、出陣を描く「風林火山」を力強く演じた。

で行われた第11回千唐流宗家杯国際空手道大会では、成年男子形(級)で渡辺大貴(経営情報学部3年、新潟第一高校出身)が優勝、成人男子組手75キ(級)でも3位に入った。

現在、空手道部は国際人文学部、福祉総合学部理学療法学科、経営情報学部の学生たちが部員として活躍。ここ10年近くにわたり大学祭ではケバブ店を模擬店として出店しており、大変な人気を集めている。大学行事にも積極的に参加するのが部の方針。また、空手道部出身の卒業生たちの中には、子どもたちが安心して食べられる野菜を作りたいと脱サラして「子供たちの未来農園」という農園を作った▼救急救命士の資格を取り救急隊員として活躍・卒業後のアメリカ大学院留学中にブラジリアン柔術に出会い都内で柔術道場を開いている▼都内で小学校教員をしながら地域の空手道場の師範として活躍——と多彩な人材を輩出している。

御所蔵の写真をお貸しください

創立30周年誌に向けて、昔のJIUの様子が撮影された皆さま御所蔵の写真をお貸しいただけませんかでしょうか。運動部、文化部、海外連携、地域連携、父母後援会、セミナー講演、大学院研究など、これまでJIUが歩んできたさまざまな場面を、本誌「JIUヒストリー」でも掲載させていただきます。ればと思っております。

これは、というものがございましたら、ぜひ下記まで二報お寄せください。お待ちしております！



窓口 城西国際大学 広報課
メール koho@jiu.ac.jp
電話 0475-55-7059